

令和 7 年 2 月 3 日市長定例記者会見 会見録

◆司会

それでは、ただいまから、市長定例記者会見を始めさせていただきます。
あらかじめ、皆様にお知らせをした通り、本日は 12 時 15 分までとさせていただきますと思いますので、よろしくお願いいたします。
それでは、市長、よろしくお願いいたします。

◆市長

今日は発表案件が多いので、すいません、長い時間になりますけど、お許しいただきたいと思います。まず、6 年度の 2 月補正予算です。これについて、ご説明いたします。全体ですけれども、金額ですけれども…。全体で 144 億 6,576 万円となります。一般会計、特別、企業会計、それぞれありますけれども、こちらをお願いします。予算の柱ですけれども、「物価高騰対策」「子育て・教育環境の充実」「防災・減災」「国土強靱化」「地域経済の活性化」「その他」ですけれども、予算の中でその他が多いのですけれども、扶助費とか、政策的ではないところの項目、新しいことをやるという意味ではなくて、費用が増加をしたとか、物価高騰に伴って費用が高騰したとか、そういったところが非常に多くを占めています。次、お願いします。

まず、物価高騰対策ですけど、これは後ほどご説明しますが、プレミアム付デジタル商品券を発行いたします。それから学校給食ですね。給食費が上がっています。とりわけ材料費、人件費も上がっていますが、保護者負担を、材料費に関しては保護者負担をいただいていますけれども、その保護者負担を、据え置くための予算となります。それから、子育て・教育環境ですね。これは、小中学校のトイレの洋式化、これを前倒しでやるためということになります。それから新たな基金の創設、防災・減災、国土強靱化というのは、これは能登半島の地震を踏まえて、トイレカーや、あるいは避難所の状況の改善、生活環境の向上を図るための措置が中心です。

それから地域経済の活性化では、市有財産の有効活用、これと、それから農業関係ですね、碾茶の製造ラインや、柑橘の共同選果場の整備、これも前倒しでやるということです。前倒しというか、事業決定をしましたので、すぐに始めていこうということです。これは国と県の補正予算が得られているので、そのためです。それから、アリーナは、これも後ほど説明しますが、基金ということになります。では、次をお願いします。

補正予算、かなり大きいわけですが、先ほど言った全体としての高騰の分、物価高騰のところが多くてという状況になります。次、お願いします。

まず、物価高騰対策でプレミアム付デジタル商品券を発行します。ただ、発行は秋口になると思いますけど、すぐに用意して準備をしたいと思っております。前回発行しました、令和 6 年 5 月から 11 月までですね、7 ヶ月間発行しましたが、基本は同じです。ただ、一つだけ違うのは、今回は市民が対象になります。前は通勤してくださっている方も対象でしたが、今回は市民だけが対象になります。これは何かというと、予算は何かというと、前回の商品券の発行の時は、物価高騰に対する市民の消費を支えるという点と、それから、市内の事業者、需要喚起によって、そちらを支援するという事業者支援の両方が入っていました。今回は事業者支援だけではなく、純粹に物価高騰に対する市民生活への支援ということで、市民だけを対象に発行するというのが違います。利用期間は、秋口と言いましたが、令和 7 年 7 月から 10 月までの 4 ヶ月間で発行したいと考えております。次、お願いします。

それから学校給食費についても、公費負担（注：保護者負担）を軽減するために行います。その他、公的病院、公立病院、これは静岡市立病院だとか、そういうところが公立病院になります。公的病院というのは、これは、例えば赤十字とか、済生会だとか、そういったところが公的病院になりますけど、そちらで救急を担っていただいていますけど、救急に関係の費用がものすごく高騰していますので、それに対して支援をするというものです。それから、中小企業等工業用 LP ガス料金高騰対策事業についても中小企業に対して支援をします。なぜ、ここが中小企業の LP ガスだけなのかということですが、例えば、都市ガスについては、県の支援だとか他にもありますので、県の支援事業と市の支援事業を合わせて全体にうまく支援が行くようにということです。こちらの軽費老人ホームについても同じですけれども、こちらも県の支援事業が同じように補正予算で出ています。その中で、県の中では、それは市でやってくださいと言いますか、抜け落ちているところを市としてやるという形になります。次をお願いします。給食費ですが、どういう構造になっているかということですが、これは令和 4 年、令和 6 年相当となっています。例えば、ここの令和 4 年相当でいうと、保護者負担が 50.2%が食材費、この分を保護者負担をいただいていた。そして、公費負担はその上の部分ということになりますけれども、これが物価高騰でだんだん、全体の費用が上がってきました。特に食材費が上がってきていますが、食材費について、これは食材費ですけど市が負担しようということで、令和 6 年、そういうことにしております。今年度から、ここの分は全部市が見るということにしていますので、だんだんと全体に占める食材費の割合、つまり無償化の部分が aumentando という状況にあります。ここになりますけど、今回もかなり上がってきますが、やはり食材費の保護者負担のところは、例えば小学生 1 食あたりは 280 円に据え置いて、全体としては 640 円の費用がかかるのですが、そのうちの

280 円、43.7%分を保護者負担をしていただいて、残りの部分は公費負担をするということになります。したがって、このあたりですと、保護者負担と公費負担が 50%-50%くらいだったんですけど、こちらになると 44%-56%くらいになるということで、公費負担の割合が増えていっているという状況になります。次、お願いします。

これはトイレのリフレッシュです。これは進めていますので、19 年度までに全ての市立の小中学校で、トイレの洋式化を進めていると言いましたが、19 年度というと、14 年とか 13 年後ということで、いつまでやっているんだということになりますので、それでも 13 年度までしか加速できませんが、13 年度までに全ての小中学校のトイレの洋式化をするということで、例えば、西奈南であるとか、今年はこういうところをですね、来年度ですね、やっていくということになります。申し訳ないんですけど、まだ令和 7 年度末、こういうのをやっても 74.7%で、25%、まだ 4 分の 1 ぐらいは残っているという状況になります。次、お願いします。

空調、これも前倒しでやっていくということですね、省略をします。

それから、寄附金ですね。これも新しい事業ですが、寄附金の次世代への活用に向けた基金の創出ということですが、今、自分の財産を若い人たちに使ってほしい、教育資金や子育て資金に使ってほしいという方が、かなり増えてきています。それを受け皿をしっかりと、受け皿を明確にするために基金を作ります。「静岡市子育て支援教育振興基金」ということです。積極的に受け入れたいと思っております。去年、制度を変えましたが、今までは、例えば、「学校の改修に使ってください」という申し出をいただいても、「それは義務教育なので使えません」というような話しをしていたのですが、それは、そういう運用は誤りだということが分かりましたので、ご寄附いただければ、学校、あるいは子育ての充実に、そういう環境の充実に積極的に充てていきたいと思っておりますので、ぜひご支援いただければと思います。

それから、もう一つは文化財です。こちら基金を明確にして入れます。これは、例えば、由比、蒲原の宿場のある街道の景観を守っていくために使ってほしいであるとか、そこにある、街道にある家ですね。家を、このままだと更地になってしまうので、それを資金を出すので、そのまま使えるようにしてほしいというようなことに対して、しっかり基金をとって対応する、これも積極的にご寄附いただければと思います。ここには言っていないですが、不動産も、一般的には市は受け入れないということでしたけども、そういう不動産についても、静岡市として積極的に遺贈なり、あるいは生前の贈与、生前の寄贈ですね、これをいただくことにしていますので、ぜひ、よろしくお願いします。

これは、将来に繋げていくということです。自分の財産を自分の子どもにという

ことじゃなくて、社会全体にいる子どもたちの支援に繋げてほしいという方が非常に増えていますので、そういうことで使っていきたいと思っています。次、お願いします。

それから、これは、やはり能登半島の地震で、能登の地震でも明確になった避難所の問題です。この避難所について、これを TKB と言っていますけども、「快適なトイレ環境」「温かい食事や多様なメニュー」「プライバシー確保・ベッド、入浴環境」を、これを改善する必要があるので、これは補正予算で早急に対応していこうということにしました。まずトイレカーですけど、やっぱりトイレが、仮設のトイレではなかなか環境がよろしくないの、台数はまだ少ないですけども、このトイレカーを入れて、普通の水洗トイレと同じように使えるような状況を作っていきたいと思っています。今、6 年度に 1 台整備していますので、2 台増やして 3 台にして、各区に 1 台ずつ配備をして、普段は防災訓練、あるいはイベント、イベントのときに仮設のトイレ、これもなかなか使いにくいことがありますけれども、そういうときにも活用しながら、災害時には市内の避難所あるいは被災地への派遣ですね、こういったことに使いたいと思っています。今、トイレカーは全国で整備が進んでいますので、何か起きたら相互支援という形でトイレカーを支援に送るということもありますので、そういった共助の関係を作るためにも重要だと思っています。あとはテント式のパーテーションですね。やはり避難所の中でプライバシーの確保というのは非常に重要ですので、これも積極的に。はい、上に上げてください。

それから、地域経済の活性化は、廃校になっています西河内小学校の活用ですけども、今、子どもの遊び場で暫定的に使っています。1 年間子どもの遊び場を使って、非常に活発にご利用いただいていますけども、これは、今までは、ごめんなさい。新たにここで事業者を募集しました、西河内小学校を使って何か新しい事業をやっただけじゃないですか、ということで、公募型のプロポーザルを実施しておりまして、一者応募があって、これからここを対象に事業を実施していくことになります。この森と市庭を代表とするグループですけども、ここは子どもの遊び場だったり宿泊だったり、そういったものが西河内小学校にできるということになります。まもなく契約をして、4 月以降に賃貸借の契約をして改修工事をやります。改修工事は 10 分の 10 の補助で、事業者にやっていただく形になりますけども、令和 8 年の 3 月には改修工事を、改修して新しい施設として利用される予定です。こうやって静岡市としては、廃校利用ですけども、これまで教育委員会が、そのまま廃校になっても教育委員会が所管していたので、一件も有効事例がなかったんですけど、所管替えをして、市長部局で見ることにしましたので、資産の有効活用を推進するという観点で。このように募集をして、廃校利用が今、第 1 号がこれで始まるという形になります。

その他、統廃合した廃校、いろいろありますけれども、だいたい、ほとんどのところ、いくつか例外が、今のところ一つ例外がありますけど、それ以外のところは、みんな関心を持っていただいて、いろんな方々からこんなふうに使いたいんだけど、という提案がありますので、順次、ここだけではなくて、廃校については、新しい利用者を見つけて、新たな展開をしていきたいと思っております。

それから、碾茶炉ですね、この碾茶炉の導入ですけども、これも足久保ティーワークス茶農業協同組合が、碾茶の製造ラインを作るということですので、それを国の補助ですね、県の補助が10分の5ですけども、その原資は国の補助ですので、それを活用して碾茶の製造ラインを作ります。これ、何が大事かというところ、これからのお茶の伸びしろは、有機・碾茶・輸出、この三つがポイントになります。粉茶ですね、抹茶も含めて粉茶ですけども、粉茶にするためのラインということになります。今までのラインでは粉茶にできませんので、新しく粉茶にしていくということです。この粉茶は需要が高くて高値で取引されるので、全体の、今の荒茶ですと金額が下がっていて、キロ当たりの単価下がってきていますけども、粉茶にすることによって高い値段で引き取ってもらおうということになります。こういった取組、この粉茶を…、ごめんなさい、碾茶を増やしていこうという取り組みがありますので、応援をしていきたいと思っております。それから、アリーナの基金です。アリーナは本予算の中でご説明いたしますけど、アリーナについては予算計上しております。これについては積極的に個人や企業の皆様から寄附金をいただきたいと思っておりますので、建設基金という、静岡市アリーナ建設基金というのを用意しました。まず、市で200万円積みましますけども、皆様方のご寄附をお願いしたいと考えています。

それから、桜ヶ丘病院ですね。これ今、さくら病院になりますけれども、ここの土地は市の土地でしたが、そのときの売払契約の関係で、こういう有機…、ごめんなさい、土壤汚染対策が、費用が発生した場合は、そこは協議をして、一部、一定分を市が負担をするということになります。それについての合意がJCHOとつきましたので、JCHOは地域医療機能推進機構ですけども、そこと話がまとまりましたので、これを計上しているということになります。以上です。どうでしょうか、本予算と一緒にいいですかね…。

すいません。続いて、7年度予算についてご説明をいたします。はい。7年度予算については、一般会計が3,885億円で、特別会計が2,631億円、企業会計、内容全体で7,301億3,940万円となります。かなり伸びているという状況になりますけど、次お願いします。

まず、一般会計ですね。これは今年度、6年度は3,534億6,000万円でした

けど、これが 3,885 億円、9.9%の増になります。かなり伸びて、積極財政に見えますけども、事実上は、この蒲原の小中一貫校の建設ですね、老朽化しているのを統合して小中一貫校にするというものや、消防ヘリコプターの更新ですね。そういった更新のお金がかかなり増えています。それから児童手当を始める扶助費ですね、これの増加で、この増加が非常に多くなっています。ですから、一部積極財政部分がありますけども、まずは本格積極財政よりも前に、ずっと先送りにしていて、更新が、維持補修が行われていないものの、更新をやっていかないと次に行けないという状況ですので、まずは更新のための予算が相当分増えていくということになります。例えば、公的な施設の市有施設の電球の LED 化ですね、こういったものが中心になってしまいましたが、一部アリーナをはじめ積極的なところも、次世代への投資という予算も入っております。

それから特別会計については、公債管理事業会計の増額であるとか、介護保険だとか、そちらの関係になります。

それから、企業会計はこれも少し減額になりますけど、前年度と同じぐらいで、この合計ですけども一般会計が増えていますので、当初予算額の全体としては、7,301 億円で、こちら 6.4%の増額、過去最大の予算規模となります。次、お願いします。

まず令和 7 年度当初予算編成において、現状認識・課題というところですけども、これはやはり人口減少ですね。あまりにも厳しい状況になりすぎているという状況です。これは市が独自で予測をしたものですけども、あくまで 2050 年にこの状態になるというのではなくて、このまま何も対策を取らない場合にはこうなりますよ、という推計をしました。つまり、今の延長上ですずっと推移していくとこうなりますということですけども、昨年 の 同 時 期、2024 年 6 月 30 日 で 675,000 人 でしたが、これが 2050 年には 492,000 人になるという状況になります。当然ですけど、この後、この状況を続けてしまうと、10 年ごとに 7 万人、7 万人と減りますので、2070 年には人口が 35 万人、つまり今の半分になってしまう恐れがあります。それぐらい厳しい状況にあるということです。これが全国的にこの傾向というなら、なんともしがたいところがありますけども、この人口減少率は、20 ある政令市の中で最も悪い、厳しい状況というのがありますので、これはとにかく何とかしないといけないということです。人口減少の問題ですけども、これはやはり将来に希望が持てない、夢や希望が持てないという状況は非常にまずいと思っています。人口減少はしても、個人については、あまり関係がないという方もいらっしゃいますけども、社会全体としては大きな問題になるわけです。ただ、やはり個人で、特に若い世代ですけども、今を生きる世代、将来を担う子どもや若者が、夢を描き希望が持てないという、つまり子どもが生まれても、この子の将来はどうも明るくなさそうだと

ということであれば、やはり子どもをもう 1 人とか、あるいは子どもが生まれたことが今の自分の生活にものすごく負担になって、将来に不安が生じるということであると、せっかくもっと子どもを作りたい、欲しいと思っていてもできない、作らないということになりますので、そういう個人が夢を描き、希望が持てる社会にするための、人口減少問題というのは、これでは駄目だということを認識してやっていかないといけないということです。

もう一つ問題になるのは、若い世代にものすごく負担かかるというのは 2050 年ですけれども、いわゆる生産年齢人口という 15 歳から 64 歳が、65 歳以上をどう支えるかということですが、例えば 2010 年ですと 2.5 人で 1 人を支えていましたが、これだけ人口が減っていくと、2050 年代ですと、1.3 人で 1 人、事実上、この 15 歳から 64 歳の 1 人が 65 歳以上を支えると、こんな状況に陥ると、社会としては非常に成り立たない状況になって近づいてきますので、これをとにかく危機感を持って改善をしていかないといけないということです。次、はい。

何にポイントを置いて作っていくかということですが、今のようなことから、この 5 つの分野に予算を重点配分します。まず、「子育て支援・教育の充実と健康長寿の推進」です。2 番目が「災害対応力の強化」、そして、「地域経済の活性化」「文化・スポーツを活かしたまちづくり」「社会変革の促進」とありますが、ここを下げてもらえますか。地域経済の活性化というのと、ここの子育て支援・教育の充実、これは非常に関連性が強いものがあります。子育て、例えばもう 1 人子どもをが欲しいんだけど作らないってところには、経済的な問題が非常に効いています。

したがって、給付を増やしていくということのも大事ですが、こういう地域経済を活性化させて、働きやすく働き甲斐がある仕事を確保して、所得水準が向上するということです。これが非常に大事になってきます。

したがって、地域経済の活性化をすることが、子育て支援教育の充実にも繋がると考えておりますので、この辺りを特に重点を置いています。

もう一つ、人口減少対策の強化ということですが、後で申しますが、「急病時あんしん預かり保育事業」というのを今回初めて、今までもやっているんですけど、非常に使いにくいというのがありましたので、新しい取り組みとして、こどもを看護師さん、あるいは保健師さんが迎え、急な体調不良が生じたときに、保育園、こども園に迎えに行くという新しい制度を作りました。これは後ほど説明します。あと、デジタル関連企業の誘致を強化しよう、移住定住を強化しよう、こういった流れがあります。

それから、費用が大きく拡大しますので、それを市の財産だけでやってはいけないので、社会共有資産をもっともっと活用していこうということが、次のポイ

ントになります。静岡市は新規の企業立地用の土地が少ないということが、最大の、若い人たちの人口流出の原因の一つと考えていますので、まずこの土地の利活用推進をするということです。これも全く新しい制度ですけども、ちょっとこれ、何か当てはまっていないように見えますけども、建設発生土が、今、処分場がなくて、その発生土を処分する費用が上がります。そうすると、土地造成をしたくてもなかなかできないと、発生土の処分地がないという。そうすると開発が進まない、土地造成が進まないというのがあります。これは市内、静岡市内には建設残土を、建設発生土を受け入れる場所はほとんどありません。ほぼゼロに近い状態で、隣の市町に頼っているという状況がありますが、それは隣の市町にご迷惑もおかけしますので、静岡市で建設発生土を受け入れる場所を確保いたしました。そして、そこに建設発生土を入れて、そののを土地造成していきます。こういう新しい制度を作りました。

それから、農地の集約化促進ですけども、これ農地を集約する、これは後でちょっとご説明して、具体的な図の方がいいと思いますので、この辺りも具体的な図で、子育てについてもご説明をします。

それから、もう一つは、市だけやるのではなくて社会全体の力で解決していかないといけないというのがありますので、こういう社会変革推進事業といって、環境分野の技術革新、海洋分野の技術革新、そういったところに対する出資制度も充実させました。

それから、ガストロノミーツーリズム、食文化観光といってもいいと思いますけども、美食観光ではなくて、地域に根ざした食文化を大事にしながら、それに魅力を感じる人に観光でやってきてもらおうという、ガストロノミーツーリズムですけど、これ静岡市ならではのガストロノミーツーリズムを、7年度から本格的に開始します。それから木材の情報共有です。これも、今、この共有システムがないので木材流通が滞っていて、なかなか山が、木が出せない点がありますので、これも変えていきます。

それから、予算編成ですね、静岡市、国の交付金をあまり積極的に活用してきませんでした。私が市長になってから、これも徹底的に、とにかく自分の予算、一般会計の財源ですね、自分の財源は使わないで、よその予算を取りに行くということで、それを徹底しています。この地方創生、国も予算を増やしてくれるということですので、今回はこういう新しい地方経済・生活環境創生交付金、これを9億近くまで増やしています。これ6億ですけども、これも5年度からは大幅に増加して6億で今回は9億と、こういう形で外の、国のお金を取りに行くということをしかりやります。あとは市債です。市の債権を発行するにしても、この有利なもの、交付税措置だとかそういうことの有利なのがあるので、これも徹底するということで、予算規模は増えても、その内容については、補助

金であるとか、あるいは交付税措置があるようなものを、なるべく使っていくということにしています。はい。

それでは、まず具体的なものですが、子育て支援・教育の充実というところですが、急病時あんしん預かり保育事業です。これは図で説明した方がいいと思います。ちょっと出してもらえますか。はい、これですね。お手元の資料の中に、こちらの、これはパワーポイントですね、こういう当初予算の概要というのがありますけども、こちらに入っています。これですね、今、何が深刻かというと、こども園にこどもを預けました。昼前に急にそのこどもが熱を出しました、そうすると親に対してこども園では預かれないので迎えに来てくださいと言われます。親は仕事をしているわけですが、こども園に迎えに行く、そうすると職場の上司から、なんでそんな仕事の途中で出ていくんだ、社会人としてなってないとか嫌味を言われて、その職場にいづらくなるというのが、実際にそういう深刻な問題が出ています。そういったことで、新しい制度を作りましたが、今までは病児保育室というのがあったんですけど、これ保護者が…、ごめんなさい。まず、こども園ですね、こども園でこどもが熱を出したという連絡が来ます。保護者が、これは、今は保護者が送迎をして、かかりつけ医に自分で迎えに行き、自分でかかりつけ医に行き、そこで証明書を取って、ここの病児保育室に預けるといって、こういう流れになっています。これが、つい少し前までは、これもデジタルではなくて紙を出して、そして証明書を出すとか非常に言われていたので、この病児保育室って利用率があまり高くない、高くないのはなぜかという、ニーズがないんじゃない、使にくいから、そんな面倒くさいことを言われるんだ、もう使えませんということで、迎えに行き、そのまま家に帰るというような状況です。そして、1日休まざるを得ない、親がそういう状況がありました。ただ、それでもやっぱり親が自分で行かないといけないんです。今回はそこを新しく変えて、この病児保育室の看護師さんであるとか、あるいは保健師さんが保護者に代わって、ここの迎えに行きます。そして、病院に連れて行き、こちらに連れて行くということです。ですから、ここで園までのお迎えを保護者、こういう連絡が来たら保護者は病児保育室に園までのお迎えの申し込みをもらって、その代わりに、ここが迎えに行く、看護師によるこどものお迎え、タクシーで行き、かかりつけ医に連れて、こちらの病児保育室で預かるという形になります。そうすると、保護者の方は、そういう日も仕事はそのまま続けられるということになります。この制度を新しく作ったということ、作るということになります。ちょっと元に戻してもらって。金額的にはまだそれほど入っている、拡充になっていますけど、この拡充が今のところになりますけども、今のサービス、言うは易しですけど、本当に実行をするためには、今のサービスをやってくださるところがないと

いけないので、いろいろあたって、何とか今 1 ヶ所、市内 1 ヶ所でやってくださるという予定ができましたので、まだ最終決定をしていませんけども、これで新しいサービスをしたいと思っています。ちなみに、今は先ほどの病後児保育室はこの 3 つありますので、これは今まで通りやりますけども、これは今まで通りのやり方ということになりますので、これではちょっと十分ではないということで、こういうものも入れていきます。今回、これを導入して、どのくらい利用者がいるとか、あるいはどこに不都合があるかということも考えながら、順次、これを増やしていくということをしていきたいと思いますが、まずはじめの一步で、この市内 1 ヶ所でこの取り組みを始めたいと思っています。もう一つは予約システムです。先ほど言ったように、ずっと紙で、今まで手続きで、それで 10 ぐらい資料用意してください、あるいはオムツを用意してくださいと、何だかんだといろんなことがあったので、そういうことをやめて、この 2 月からこの予約システム、オンラインでの予約システムを入れていますので、もう少しこちら也使いやすくなります。じゃあ、次お願いします。

給食費は、これは令和 7 年度も続けますので、省略します。

それから、学校については、蒲原の小中一貫校ですけども、いよいよ建て替えて新校舎を建設して、令和 8 年度から蒲原地区小中一貫校が開校予定です。かなり厳しいスケジュールでしたけど、とにかく早くやろうということで、何とか令和 8 年度から蒲原地区の小中一貫校が開校する予定になります。さらに、これから、藁科地区の小中一貫校、由比地区の小中一貫校、これについても始まっていくことになります。この由比も、これも地域のご要望にお応えして、前倒しで小中一貫校にするということにしましたので、そのために由比中学校の校舎改修の費用なんかを入れています。さらにお願います。

それから、もう一つは、これは年代が上の方々に対してですけども、やはり認知症の早期発見・予防促進事業ですね。静岡市は、昨年度からですけども、この、もっと下げてください。いやいや、あの、下げるときは、はい、はい。上はこっちです、いや逆、逆、はい。早期発見・早期介入・早期の行動変容、これを非常に重視していますし、それによって重症化予防、これを静岡市としては、あるいは発症予防ですね、これを重視しています。認知症についても、早めに発見すると早めに対処できるので、そんなに重症化、悪化しない状態で、推移できるということになりますけども、それをやるためには、早いうちに検診を受けて、認知症の疑いなり、可能性があるということを明らかにして、そうすると軽度の段階で、軽度の認知障害という診断をされると、その段階で早めに手を打っていく、この早めに手を打てると、相当、重症化が改善されますので、こういうことを、これから本格的に取り組んでいって、すでにやっているんですけども、これをさらに増やしていくとともに、具体的な取り組みもいろいろやって

いきたいと思います。大事なのは、やはりこの 65 歳以上の方、この方々にちょっと物忘れが厳しくなったなと思ったら、この物忘れ検診、これを受けていただければと思います。私も、これ一度受けたことがあるんですけど、幸い大丈夫でしたけども、やはり受けるというのは非常に大事だと思いますので、お願いします。

今度、災害対応力の強化ですけども、これは消防ヘリ、出動回数が減っていますが、もう 2007 年から導入して、やっぱり 20 年も経つと、使いにくい状態になって故障ですね。あるいは、維持管理費も増えたりしますので、そこをやるために、カワセミを新しいものにします。非常に高度な、今よりも性能を向上させます。それから、さらに、ポンプ車であるとか、普通の消防の機材ですね、こちらについても更新をしています。こうやって更新の費用が、相当かかっていくということになります。はい。じゃ、どんどん上にあげてください。

それから、森林の適正管理、これを新しく取組でやります。これは何かというと、今、山がかなり荒廃してきています。それで再造林は、伐採をしても再造林されないとか、あるいは伐採されないでそのままになっているという森林が増えてきています。これは森林、林業が儲かる産業になっていないということもあるんですけども、林業の儲かる産業化ということで取り組んでいましたけど、それではもう対応できないということです。しっかりした計画を作って、環境林と循環林と言っていますが、循環林というのは、森林が持つ公益的機能ですね。水を涵養するとかそういう効果も発揮してもらいつつ、木材生産を目的に資源の循環利用を行う森林ですね。植えて・育てて・切って・また植えてという、その循環をさせるという森林です。もう一つは環境林で、これは、新しくそういう循環させないで、どちらかというと天然林に戻すという、自然林に戻すという、ちゃんと区別をして計画を立てて、それぞれにおいて適正な管理をしていこうということです。そのときに、森林カーボンクレジット創出促進事業ですけども、そういう循環林でも環境林でもそうですけど、何かやったときに森林が持っているカーボンクレジット、炭素の吸収機能ですね、これをうまくクレジットでして、やる機能がありますので、こういったことも活用しながらやっていきたいと思っています。ちょっとこの辺りは専門的ですので、詳細省略します。

次は、上下水道の施設の地震対策ですけども、これは大幅に増加しますけども、今はもう下水道管で大きな問題が出ていますけれども、やはり上下水道ともに老朽化が大変な問題になっています。能登の地震で、液状化をはじめ水道管、あるいは下水がやられて、やっぱり生活の不便が生じて、いまだに解消しないという状況がありますので、事前に、事前防災ということで、しっかりと水道管の耐震化を進めようということで、耐震化が中心になりますけども。特に、静岡市は耐震化を進めてきたんですけど、以前ちょっと発表しましたが、面的にと

というのは、ある地区、例えば、この辺りが市役所中心の地区だとすると、その辺りで面的に耐震化をしていたんですけども、それでは駄目だと、ちゃんとルートですね、給排水のルート、上下水道一体で重要施設を経営する給排水ルートを重点的にやる、例えば、災害拠点病院、あるいは避難所ですね、そういうところに繋がる給水のルートと下水のルートをしっかり選んで、そこで耐震化を進めるという、線的な耐震化と言っていますけども、それを徹底的にやろう、しかも加速をしていこうということで、これに取り組んでいます。浸水対策も強化しますが、これも省略します。今、そのあれ、はい。

今度は地域経済の活性化ですけども、これは社会にある共有資産を有効活用しようということですけど、ちょっと残土の絵がありますかね、はい、これですね。これ、土地の有効活用と言いますが、まずは建設残土の発生が非常に問題です。今はどうなっているかというと、建設工事現場、これは公共・民間、例えばビルを建てる時に地下掘削をするんですけど、建設発生土というのが出ます。これを発生土の処理場に持っていきますが、ほとんど今、市の外になっています、市外になっています。なので、遠くまで運んでいくということと、受け入れ先からも受け入れてもらいにくいので、これに苦慮しているという状態があります。高いもんだから、盛土ですね、不法盛土というのが出たりもするわけです。もう一つは中間処理施設ということですけども、中間処理は、市内に中間処理施設があります。ここに持って行って、ここの中で有効活用できるものと、そうではないものを分けてやるということになります。これを、今までは民間事業者の方々に担っていただいていたのですが、今回は、ここですね、建設発生土の受け入れ場を大量に確保、静岡市でいたします。まだ、最終契約に至っていませんけども、ある場所でこれを大量に処分地を確保いたします。まもなく契約になると思います。そこに、今ここにある施設を、物を入れるということになります。もちろん民間の処理場がありますから、これをやると民業との関係が出てきますから、そこは民業とのバランスが取れるぐらいの値段で受け入れるということになります。ここに、市が直接ここを受け入れるということになりますので、建設工事現場から市が受け入れ料金を取って、それで市の施設、市の確保した場所に入れます。このときに、市場価格よりもちょっと安いぐらいの料金をいただきますけども、かなりの金額が入ってきますので、今度はこの土地を、建設発生土を処分した跡地を造成して、企業用地であるとか、そういった用地に変換していきます。そのためには少し造成費がいりますので、この基金をこちらに入れるということになります。そうすると何が起きるかということ、まず、この今まで建設工事現場で発生した、残土処分で非常に困っていたわけですけども、とりわけ静岡市ですね、これができますから、まずこの処分がどんどんできるということになります。

したがって、土地を有効活用して造成をしていこうと思うときの支障になっていたこの残土処分の問題が、まずここで一つ解消します。もう一つは、静岡市は企業立地用地が少ないという弱点がありましたから、ここで新たな企業立地用地を供給していくと。一石二鳥とよく言いますけど、一石で二つの利益が得られるという、これを 7 年度から本格的に実施していきます。次、お願いします。

それから農地です。農地集約協力金を出します。図があると思います。農地の集約、今、どういうふうに行っているかということですけども、静岡市、荒廃農地、低未利用農地が非常に増えていますけども、例えばですけども、この耕作、耕作荒廃、荒廃と、こういう状態になってくると、バラバラに存在しているからなかなか高度利用ができないんですね。先ほどの土地等利活用推進公社がやっていくのは、これを集約して、農地と非農地に分けて、農地も高度利用しましょう、施設園芸を入れたりして高度利用しましょう。こちらの非農地になったところは、企業用地なんかに使っていきましょうということになりますけれども、ちょっと、これ細かいんですけども、今、耕作しているこの人ですね、この人が荒廃農地に行っていたらダメで、こういう状態にならないですね。ところが、この方はここに行っても何もいいことがない、今、制度上ちょっとこれが困っています。したがって、これを、支援の費用をここに入れたいというものです。あるいは、ここを、こちら側に、出ていくということです。他のところで確保するというのを、これも支援するということになります。そうすると、こちらでいうとこういう非農地ができる、こちらでいうとこういう非農地ができるので、それで土地利用を促進していこうということです。土地利用を促進していこうと思うと、本当にこういう現場が動かないことに、一つひとつ手を入れて動くような仕組みを作っていくというのが大事ですので、これは今回、こういう取り組みをしていきます。

それから、デジタル関連これにも大変力を入れていきます。デジタルについては、ちょっと逆。デジタル関連企業については、これは最近、静岡市にデジタルあるとか、エンターテイメント、そういった関連の産業が、こちらに立地してきてもいいよ、産業というが企業ですね、静岡市に立地してもいいよという声が増えてきています。これは、実は静岡市の最大の強みってということですけど、大学と専門学校の数が多いということなんです。これを今まで上手く活用してこなかった。専門学校、高校から大学に行くときに、静岡県全体ですと、定員が 50%しかないです。つまり 50%は減ってしまうということですね、人口は。高校から大学に行くときに。静岡市は 104%あるんです。ですから、つまり高校生から大学生に行くときに、静岡市は人口が増えるんです。なのに、人口減少が何であんなに厳しいのかということ、大学を卒業した後、あるいは専門学校を卒業

した後、ここに残れるような産業がないので出ていってしまうということです。ですから、せっかく大学の定員、高校生の進学者に対して、大学の定員が104%あるのに、それを活かしてこられなかったというのが、静岡の人口減少の問題の、大きな要因の一つです。それを防ぐために何かというと、こういう、とりわけ情報系の大学、専門学校が8校もあって3,000人が在籍していますが、今、4割が市外に行ってきます。したがって、この人たちを、ほとんど、こちらで就職してもらうということです。これを徹底的に強化したいと思っています。そのためにはどうしたらいいかっていうと、デジタルだとか、エンタメエンターテインメントの企業に、ここに立地していただくということです。立地していただいて、学生時代から会社といろんな関係を作るインターンシップをやったり、場合によってはもう雇用されるみたいなこともあると思いますけど、そういった状態を作って、囲い込んでいくということですね、企業も。そうやっていくと、今まで流出していた大学、専門学校を卒業したら首都圏中心に流出していた学生が、ここの企業に、新しい産業、デジタル、エンタメに限らない、スタートアップでもそうですけど、そういう人たちとともに仕事ができるようになる、これを徹底的にやっていきたいと思っています。したがって、そういう企業立地、デジタル関連の企業立地の補助金であるとか、あるいはデジタル人材育成に関する支援、こういったことをやっていきたいと考えています。

それから、新規就農ですね。この新規就農も、先ほど農業で荒廃地が増えて、荒廃農地が増えていると言いましたけども、担い手が完全に不足しています。農業は儲からないのかというと、実は儲かるんです。所得じゃなくて、収入の話をしめますけども、いきなり農業を始めて、収入が1,000万円ということも不可能ではありません。実際にそういう状況は起きています。そういう大学、ごめんなさい、新規就農で収入が800万円とか1,000万円、年間になるような農業を、どんどん、どんどん増やしていこうというのが、これからの静岡市の取り組みです。そうすると、これのトレーニングファームというのを作りますけれども、例えば、いちごですね。いちごとみかんで作りますけれども、柑橘でやりますけども、いちごについて言えば、いちごのトレーニングファームに2年間入ってもらいます。そこで技術を習得して、それを卒業したら自分で土地を買うなり、借りて、そこにハウスを作って、それで自分で農業を始めます。いちごの栽培を始めます。その2年間で技術をしっかり学んでいるので、その中で技術というのは、最新のスマート農業も、あるいは匠の技も両方学んでやりますので、そうすると、始めると、8,000…、ごめんなさい、800万とか、1,000万円の年間の収入が最初から得られるようになるということです。そういった農業をつくっていこうということで、JA しみず、JA 静岡と連携をしてトレーニングファームを作ります。これは、全く新規になります。その他、

新規就農に対するいろいろ支援もありますが、こっちは省略します。

それから、木材の情報共有です。図を出してください。これですね、木材が何でうまくいかないかというと、現在の木材流通ですけども、林業家がいる、あるいは、ここに森林組合とか森林を伐採する企業があって、製材所に行って、ブレカット行って、工務店に行って、消費者になりますけども、この間の情報がわかりません、今の状況です。それぞれ、こんなもんかなという需要、需要と供給を見ながらやっているの、なかなか木材流通が効率的になりません。どこかで供給過大であったり、需要不足になったりするということです。同じですかね、供給で…、逆ですね、供給不足になったり、需要不足になったりするということがあります。そうすると市場価格が安定しないので、この価格が低下したり、林業従事者の所得が減少になります。新しい木材情報共有プラットフォームということですけど、こういう林業家から工務店まで情報共有をするということです。だから、工務店、施主から「何か木造で家造りたいんだけど」という情報が来たら、これがこういうところにも全部繋がっていて、「じゃあ、うちのこの木材をこう出しましょう。それはいつまでに出せますよ」という情報が工務店に繋がっていくわけです。そうすると、全体として非常に効率的な、安定的な流通ができますので、こういうシステムを作ります。はい。これは…。

それから、北口の地下広場です。これも変えていきます。これは、中心市街地の活性化ですけども、北口ですね。やはり静岡市らしさがないというのと、滞留スペースがほとんどなくて、完全に通過するだけになっているのですが、ちょっともったいないということになります。ここで、北口の地下ですね、ちょっと老朽化じゃなくて、かなり老朽化しているところもあるので再整備をしますけども、こういった形で天井も、竹千筋細工のイメージですけども、こういったイメージで作っていきたいと思っています。ただし、これは、まだイメージ図ですので、この通りになるかわかりませんが、これから、「なるほど、これ静岡らしいよね」というですね、やはりお茶の香りもして、こういうところで滞留して行って、あるいはこういうところにマルシェがあって、静岡の食材がここで朝採れ野菜があるとか、そういった状況になると、人が集まり、滞留でき、あるいはのんびりできる施設になりますので、こういったことをやる予定です。ただ、これ、まだイメージ図ですので、これから、ここの詳細設計をして行っていきたいと思っています。その次、お願いします。

それから、これは青葉シンボルロードですけども、ちょっと上げてください。青葉のシンボルロードですけど、市役所があって常盤公園がありますけども、この間に、ここ本当に老朽化しています。1990 年頃つくって、その後、老朽化していて、今、歩いていただくと、下の舗装のところがアスファルトで盛り上がっていたり、それから横のモニュメントところが金属でささくれがあって、

あるいは錆が入っているというような状況で、これが政令市静岡市のシンボルロードかという疑いとなる状況があります。これは、ここに投資を今まで本当に入れてきませんでした、シンボルロードに。やはり、これができて30年以上経っていますから、もう1回ここをやり直した方がいいだろうということです。1回実験を、ここを交通を止めてやりました。今日は、今、映画のフィルムコミッションやって通行止めになって、大変な状況になっていますけども。ここを一体化しようと、通行止めにするかどうかはまだ先で、まず最初にこのようなイメージで段差をなくして、こちらの店舗、こちらの店舗と、この間がもう一つの平面になるということです。その間に交通が通るときもあれば、なるということ。これはやはり、例えば出雲大社ですね。出雲大社の前の参道だけ商店街みたいなのは、こんなふうになって、よくありますね、こういうイメージのところ。やっぱりこういうイメージにしていける必要があると思います。フランスのカンヌ、静岡市の姉妹都市ですけども、やっぱりこういう感じで、一体化、店舗と前の道路、広場が一体化になっていますので、こういったものを入れていきたいと思っています。

それから清水港ですね。はい、もうちょっと上です。清水が一番の課題はこのクルーズターミナルとこちらの通り、クルーズターミナル、ドリームプラザと、こちらのJR清水駅側の一体性がないということです。新たな交通体系を入れていきます。今、自動運転の検討したりしていますけども、やっぱり限界があるので、いよいよ何らかの形でここを繋ごうと思います。どういうものがあるか、自動運転の小型のモビリティで繋ぐという形もありますし、少し、ケーブル、横浜に、みなとみらいのところにゴンドラケーブルがありますけど、あれほど大規模じゃないにしても、ケーブル系で繋いでいくというのがありますし、陸上の場合もあるし、空中もありますけども、そういうものを入れていく。それから海上交通、海上交通も、ここにフェリーターミナルがこちらに移りますので、おそらく、この清水駅を降りて、この河岸の市も新しくなるので、この集客も活発になると思いますので、これを海で繋げる、あるいは三保半島ですね、こちらとうまく繋げるという、そういう交通体系を検討して、これは検討じゃなくて実施するというつもりで、とりあえず何が最適かという検討をしています。いずれ、このエネオスの用地も変わってきます。フェリーは4月か5月には、今年の4月、5月にはここに移ってきますので、清水は相当これから変わっていく状態になると思います。

ガストロノミーツーリズムですね、これは静岡、食材がいっぱいあって、標高差5,500m、本当に何でも食材あるというところですけども、食材の宝庫ですけども、食文化の宝庫では、残念ながらないというところですね。だから、やはり静岡の食文化がすごいというブランドイメージを作っていって、そして、例えば

レストランの、ベスト・レストラン・アワードだとか、そういう取り組みについて表彰するような制度もやっていきたいと思っています。静岡の特徴は、やはり SDGs ですよね。例えば有機を使ったり、地域の特産のもの、その場所しかない在来野菜だとかそういうものもありますし、そういう地域に根ざした食文化、食材、それを生かした食文化というのを作り上げて、静岡というのは SDGs に、非常に SDGs に対して先進的なところというイメージ作りのガストロノミーツーリズムというのもやっていきたいと思っています。県がふじのくに SDGs 認証制度というのを作っていますので、その県とも、一体となりながら、連携しながら、この取組を進めていきます。はい。

次は文化・スポーツですけども、アリーナですね、アリーナについては、これは基本計画を策定して、これからやりますけども、すでにご説明していますように、PFI 方式の BT+コンセッション方式というのを採用して、事業者公募をしたいと思っています。今、基本計画の策定を公表しますので、その上で令和 7 年度に事業者募集、7 年度末、ごめんなさい、7 年度末に事業者を選定が最終的にできて、8 年度には事業者決定をして、令和 12 年度、2030 年の 3 月には開業したい、こんなふうに考えています。このための用地の取得であるとか、その他の費用について今、計上しているということになります。それからアドバイザーですね。これはちょっと省略しましょう。

それからもう一つ、まちづくりです。アリーナ関係で、まちづくりと一体になっていく必要があります。東静岡駅と長沼駅を一体化して、このあたりのまちづくりということになります。先ほどデジタルエンターテインメントの話もしましたが、やはりこういうアリーナというのは、表現の場ができますので、デジタルエンターテインメントとの親和性というのは非常に近くなります。例えばですけども、静鉄でこうやると新静岡駅行きますけど、そのあたりにはデジタルエンタメ系の産業がいっぱい充実しているとなると、こちらから、今の静岡駅、新静岡駅付近と、こちらが一体、あるいは、このいわゆるおまちの部分と、ここが一体的な魅力あるまちということになって、若者を引きつける街、あるいはデジタルエンタメ系の企業立地が進むという場所になってくると思いますので、そういったことも頭に入れながら、まちづくり計画を進めていきたいと思っています。それから、交通体系ですね。新交通体系も入れていくような計画もこれから立てて、実現していきたいと思っています。

野外展示は、ご協力いただいて、駿府城公園の天守台のところの、これを VR で再現しようと。こちらについては、おかげさまで寄附金が非常にたくさん集まりましたので、実現できることになりました。VR の技術を生かして、仮想で、何かかざすと駿府城が浮き上がるような絵ですけども、その状態ができました。もう一つは、今、あそこに発掘をして、石垣、遺構がありますけど、

あれを見る施設がないので、それを整備する費用を計上しています。今コンペですね。せっかくですから、将来に繋がる形にするために、今、学生ですね、大学であるとか、専門学校であるとか、そういうところにデザインコンペを実施していますので、そういった方々のデザインを参考に、あるいは採用して、この遺構を見る施設をつくりたい、つくります。次、お願いします。

ちょっと客船誘致はもう省略しましょう。エコパークもちょっと省略しましょう。ちょっと長くなってきたので。

あとは社会変革の推進で、スタートアップ、それから物流の効率化、ワンストップ行政、こういったことを進めていきますが、ちょっとワンストップ行政だけ、絵がありますね、それですね。DX、DX とデジタル・トランスフォーメーションと言いますが、いきなりデジタル・トランスフォーメーションで新しい技術を入れても駄目です。静岡市は何が一番問題かというところ、縦割りが多くて、こういう各課の届け出がバラバラなんです。これ共有していないんです。だから、ここに来た方はどの窓口に行っても、書くんです。「書かない窓口」とか「書かせない窓口」というのが、今、いろいろ出てきていますが、静岡市は徹底的に書く窓口になってしまっています。例えば、お悔やみ対応ということで、お亡くなりになられた方の死亡届を出して、いろんな手続きがありますが、それが共有されていないという状況が、今あります。それを改善して、この統合データ基盤を作って、情報がみんな共有化されるようにしようということです。この間に無駄な手続きがいっぱいありますので、無駄な書類、無駄な手続き、無駄な書類があるのをデジタル化すると、それは無駄が残ったままのデジタル化になりますから、まずは今まで何をやっているかというところ、そういう無駄がどこにあるのかというのを徹底的に調べて、それで、こうやって合理的なシステムにしましょうということで、今、これを作っています。8 年度サービス開始ですけど、7 年度にシステム設計をして、とにかく書かない窓口、書かなくても済む窓口をこれから実現していきたいと思っています。かなり周回遅れと、うちの厳しいデジタル政策監からは、外部人材のデジタル政策監から言われていますけど、デジタル政策監が言うには、「周回遅れだからこそ最先端に出られるぞ」と。だから、最先端に出られるような新しいシステムにしましょうということで、今みんな頑張っているところですので、8 年度からサービス開始ができると思います。はい。ただし、全部じゃないです。まずは、例えばお悔やみ対応から始めるということで、順次やっていくという形になります。あとは、省略でいいですね、はい。あと、ごめんなさい、移住・定住だけ、もう 1 個入れますか、はい。ちょっと上に行ってください。さらに、図を出してください。この下にあるはずですよ。はい、これですね。

はい、この移住・定住ですけども、いろんな制度があります。国の制度があって、

移住・就業補助金というのは、これは非常に手厚い補助金が国から出ます。ただし、これ東京 23 区内に限っています。今、東京 23 区内と 23 区外、その他ということで、この住宅確保応援補助金というのを作りましたけども、これと就職応援補助金、これらを合わせて、国がお金が出ないところ、こういうところを、国がお金が出るところは国にお願いして、そうではないところは市が制度を作って、例えば東京 23 区内から 3 人世帯、子ども 1 人が空き家を改修して移住した場合は、住宅確保と移住就業補助金、これは国ですけども、それと空き家の改修支援ですね、こういったことで最大 600 万円ということになります。子ども加算がありますから、子どもが増えるともっと増えます。こんな制度を作って、移住を増やしていきたいと思っています。静岡、こんないい場所ですから、皆さん移住をしたがっているんですけど、なかなか住宅の確保がうまくいかないとか、あるいは仕事のところがうまく見つからないというのがありますから、こういうものを作って、もっともっと移住・定住を増やしていきたいと思います。

令和 6 年度はかなり社会減です。社会減は、何かの都合で出ていく人と入ってくる人の増減の比率、増減の足したものですけども、まだ減少傾向が続いていますけども、令和 5 年度から大幅に解消、改善されたので、さらにさらに加速して、社会増ですね、これを目指していきたいと思っています。自然増減の自然減は、これはお亡くなりになる方と生まれる人の差ですから、自然増減も、これは生まれる子の数を増やさないといけないんですけど、それは限界があるので、やはり即効性のある、こういう移住、実際に社会ニーズがあるところをしっかりと出していきたいと思っています。はい。以上で発表、予算関係の発表は以上です。すいません、この後まだ 2 件あって、南口の再開発であるとか、そういうところもありますけど、まずは、あと 2 件、あと組織機構改革ですね、これもありますけど、とりあえず予算についてご説明いたしました。

時間がないので、組織機構改編は、ちょっと省略した方がよさそうですので、駅前をやりましょうか。発表で、すいません。続いて、すいません、組織機構改革については、これは省略をして、駅前の、ごめんなさい、静岡駅の南口の駅前、この広場の再整備について、基本計画案を作りましたので、この内容についてご説明をします。

まず、イメージを見ていただくのがいいと思いますので、ちょっとこちらを。止めないとわかんないですね、もう 1 回戻してもらえますか。はい、まず、止めてください。もうちょっと元に、それが最初。はい。はい、まず最初、今、現時点のイメージ図ですけども、駅前の広場の再整備を計画していますけど、まず基本計画を作って、具体的な設計に入って進めたいと思います。ここに既存の建物、ごめんなさい、ここは今の駅になります。これ JR 東海の建物です。

この辺りに建物があったり、駐車場があったりする場所ですけども、今はここにロータリーがありますが、この状態ですね、この状態とはちょっと違いますけど、ここにロータリーがあって、ここの中にバスが入ってくる、タクシーが入ってくる、一般車が入ってくる、こんな状態になっています。これをどうするかということですけども、こうやって、ここの、こちらがバスとタクシーになります。こちらが一般車です。これを完全に分けます。ここの出てきたところに、この下はピロティ側になっていて、上側に、ここに商業施設が入るような形になります。ここに、もう一つありますけど、ここに商業施設が建つと思います。おそらく、かなり高層な建物がここに立つというような計画になると思います。これは市の事業じゃなくて、ここの土地所有者が実施する事業になりますけども、連携をしてやる。それから、これと、今話していますが、これとこれが一体になるということです。したがって、この駅の中とこれを、繋ぎはどうかかわかりませんが、出てくると、この2階に上がると。こういうところに商業施設があって、こちらの、ここもおそらく商業施設だとか、そういったものになると思います。あとはオフィス、ホテルの可能性もありますけど、ちょっとわかりませんが、何があるか。そういうところと繋がるということになります。ここですね。ここは公共交通、これが一般交通になります。

ちょっと流してみてください。はい、止めてください。こんな形です。今のこの辺りは駅ですので、ここで、これ JR の建物です。それから、ここに商業施設があって地下が空いていて、ここにバスが入ってくるということになります。こちらが一般車の通行、ここにビルが建つ、商業系、地権者の方々の持っている土地が建つと思います。ちょっと進めてください。はい、そこで止めて、はい。これが石田街道になりますけども、駅から出たときに、やはり街の見た感じというのは、ぱっと見たときのイメージというのは非常に大事ですので、これで石田街道側に、さあっと抜けるような景観にしていきたいと思っています。はい、次、流してください。

止めてください。こういう形で向こうに広がっていくような街並みになります。はい。じゃあ、次お願いします。これで、いいですよ。はい、止めてください。駅から出ると、上にこういう建物があって、ちょっとここは、この辺りと繋がっていませんけども、イメージですのでご理解ください。ここが、ここは一般車にすでになっています。ごめんなさい、これ、バスですね、バスとタクシー、ちょっと色が、なんかちょっとよくないですね。これタクシーになります。この辺りの屋根をどうするかというのは、まだこれからですし、全体的に何も、こういうところでモノを入れていませんので、例えばベンチだとか、そういうのも何も入れていませんので、非常にすっきりした状態になっていますけども、この辺りの細かい景観づくりは、これからしっかりやっていきたいと思っています。

木を植えたり、どうするかということも含めて、はい、流してください。
こんなところ、滞留できるようなスペースもあって、この辺、止めてください。
こちらは一般車ですね。石田街道から駅に向かって右側のところですね。今、
駐車場になっている辺りですけども、パチンコ屋さんがあって、その先のあたりの
ところはこういったことになります。ここに商業系なりのビルが建つという
ことになります。はい、じゃあ流してください。

通行は、こういう形で一括に行くんですね。はい。止めてください。反対側から
見るとこういう形です。こちら、今、グランヒルズがありますから、グランヒル
ズ側から見るとこんな形で、これ、JR の建物ですね。こんなふうに、ここ何も
入っていませんが、これは全面ガラス張りになるのか、どういう状態かわかり
ませんが、そういう、おそらく解放感のある建物になると思います。

これは石田街道から入ってきたとき、タクシーで入ったところと想像いただ
ければ。これ歩いている感じ。はい、ありがとうございます。これ、動画を見て
いただくのが一番わかりやすいので、こういった計画だということを、今、基本
計画として公表して、パブリックコメント、市民意見の募集をしていますので、
ぜひ積極的にご意見をいただければと思います。

これもまだイメージですので、これから詳細な検討をして変えていきたいと
思っています。発表は以上になります。すいません、発表、長くなりました。

◆司会

はい、それでは発表案件についてのご質問をお受けをしたいと思います。

はい、静岡朝日テレビさん、お願いいたします。

◆静岡朝日テレビ

よろしくお願いします。来年度の当初予算案について伺います。説明資料の
53 ページです。説明資料の 53 ページの東静岡地区まちづくり推進事業です。
この実施内容の 2 について伺います。ペDESTリアンデッキについてなん
ですけども、現在は静岡鉄道の長沼駅から東静岡駅とアリーナを繋ぐって
いう計画だと思うんですけど、これも様々な意見があって、今の交通の混雑の
緩和と、あとはコストの兼ね合いを考えたときに、大きな混雑が予想される国道
1 号に関しては、デッキを超えて、その先はこれまでと同じように地上を歩いて
もらうということも考えられるというような意見が結構出たんですけども、
これについては難波市長どのようなご見解でしょうか。

◆市長

はい。ご意見はあると思いますが、地上を歩くのは、はっきり申し上げてない

と思います。それはなぜかという、通行者の利便を考えると、それは適切ではないと思います。また降りてまた上がって、そして、こちらに、長沼に、向こうに行くということです。長沼の、静岡鉄道ですけど、静岡鉄道は、駅はこちら側にはできないんです。静鉄よりもこちら側に駅はできないので、スペースがないので。どうしても駅を新しくする、していただけたらと思いますけど、こちら側につくらないといけないので、どうしても静岡鉄道の上を人が通らないといけないわけです。そこはデッキで抜けざるを得ないわけです。だから、ここの国道1号も、これは歩道で歩くと渋滞になりますので、そこは歩行者は基本的には通らないような状態、全部上を通るという形にしますと、ここで1回上上がる、またここで上に上がりますから、そうするとここを下げてしまうと、上にいって、下にいって、また上にいってということになりますから、それはありえないと思います。いろんなご懸念が、ご心配があると思いますので、そのご心配はうまく対応しながら、デッキは全部上で回していく、上を通行していただく形が一番良いと私は思っています。

◆静岡朝日テレビ

ありがとうございます。ちょっと私の聞き間違いかもしれないんですけど、今の難波市長、静岡鉄道の長沼駅、新しくつくり変えてくれると思うという発言があったと思うんですけど、これはどういうご趣旨でしょうか。

◆市長

今の駅はここにありますが、長沼駅。とてもこの人数が対応できるような状態になっていませんので、そこを何とかしていかないと、実質的な上手い交通が作れないわけです。今の駅のままの状態、ここにペDESTリアンデッキ、歩行者用デッキですね、つくっても、駅の容量が小さすぎてほとんど人が増やせないということになりますから、デッキをつくる意味がほとんどなくなると思います。

したがって、デッキができるということは、やはりここの長沼駅の改修ですね、これが必ずセットになると思いますので、これは静岡鉄道に、今、協力をお願いしているという状況で、「協力します」と言っているというので、具体的にどうするかはまだわかりませんが「協力はします」。つまり、駅については何らかの形で手を入れる、入れてくださるということは、お約束いただいていますので、それはそういうことになると思います。まだ具体的なところはわかりませんが、何らかの形で駅は改修されると思います。

◆静岡朝日テレビ

わかりました。ありがとうございます。

◆司会

はい。先に、テレビ静岡さん、お願いいたします。

◆テレビ静岡

よろしくお願いします。当初予算案ですけども、難波市長なりに一言でキャッチフレーズをつけるとしたら、どんな予算というふうに言いますか。

◆市長

ありがとうございます。6年度は「変革始まりの予算」というようなことを言っていたと思いますけど、明確にそういう予算名をつけたわけではありませんけど、そういった言い方をしていたと思います。名前をつけるとすると、6年の「変革のための始まり予算」ですね。そう言っていたと思います。今回は「変革加速予算」という名前かなと思います。加速予算というのは、変革のための始まり予算というのはどういう意味かということ、アクセルを、車で言うとアクセルを踏み始めた瞬間が始まりだだと思いますので、つまり加速です。加速のために、変革のためにアクセルを踏み出したわけですけど、今年は加速ですので、アクセルを踏み込んだ形で、少し踏み込んだ形でスピードを上げていっている状況だと思います。

ただ、まだまだ速い速度にはなっていません。なぜかということ、静岡市の行政の執行力ですね、先ほど窓口対応の話もありましたけど、ああいうところでいっぱい非効率、あるいは執行能力に課題がある部分がありましたので、そこを徹底的に2年かけて変えてきました。それを変えてこない状態で何かやっても大体失敗するということになりますので、そこをあまり失敗しないような組織に作り変えてきましたので、そこを変革してきたということです。いよいよ踏み込んでも足腰がしっかりしてきた状態になりますので、車で言うと足回りですよ、足回りがしっかりしてきたので、少し踏み込んでも大丈夫かなということで、変革加速予算と言いたいと思います。

◆テレビ静岡

ありがとうございます。それで今後の財政見通しなんですけども、加速していく中で投資的経費がいろいろ増えていくというふうに予想されていますけども、そうすると財源不足とか、あと市債残高も増えていくというふうに予想されているようなんですけども、いろいろ国の補助金とか使うっていうふうに、アイデアは

いろいろお持ちのようですが、まず今後数年間の財政見通しについては、どう受け止めていらっしゃるでしょうか。

◆市長

財政見通しについては何とか耐えられるというところですけども、加速と言っているんですけども、そして、加速のためにという、何のために加速化というと、やはり投資ですよ。静岡市は明らかに投資不足だったと思います。したがって、公共投資が、公共投資というのは道路とか河川をやる、いわゆる社会インフラ整備ではなくて、例えば、まちづくりのようなところ、そういう投資が全体に欠けて、不足していました。そこを不足しているから、民間の投資の誘発が起きてないということです。だから、公共投資をしっかりとやらないので民間投資が誘発されない。だから経済的には、そして人口が縮小していくという、ある種悪循環が起きているわけです。その回転を戻すためには、やはり加速じゃなくて、公共投資を入れて民間投資を誘発していかないといけないというのが基本になります。

したがって、本当に、さっきなんで加速予算と言ったか、本格的に踏み込めないのはなぜかと言うと、そこに維持管理経費が乗り過ぎているんです。来年大幅に予算が増えるように見えますけども、何が大きな予算になっているか、増額ですね、例えば蒲原の小中一貫校で 35 億になります。消防ヘリの更新、これも 28.7 億。消防の無線系を変える総合情報システムの更新が 25 億ですね。それから最終処分場ですね、廃棄物の処分場が 20 億。市有施設の照明設備の LED 化が 16 億。小中学校特別教室の空調設備が 8 億です。トイレのリフレッシュは、これは 2 月補正対応しても 14 億です。見ていただくと、これだけで 100 億をポンッと超えるような予算です。だから、さっき投資不足と言いましたけど、維持管理にもお金使っていないんです。だから、そこがものすごく積み上がっているんです。だから、例えば清水の庁舎もそうです。これも今年予算計上していませんが、いずれあそこをやらないといけないわけです。清水庁舎の、今回大きな予算出ていませんけど、市民文化会館これもこれから 160 億かかるわけです。さらには、卸売市場、これもすごい金額かかるわけです。だから、そうやって、…。特にもう一つ言うと、LED 化、もっと早くやっておかないといけないですよ。蛍光灯がなくなるという、お尻が、後ろが限られた状態になって、今から遅れないように必死でやるというような状況になっているわけですよ。

だから、とにかく先送り、先送り、もっと早く維持補修をしていかないといけないものを、先送り先送りして、いよいよもうどうしようもなくなったという状況で今やっているわけです。だから、7 年度はそれをこなしていかないと次に

行けません。だから、予算が大幅に増えているように見えますけど、実態上は新しいものをどんどんやるというよりも、遅らせてしまっていた維持管理のための費用を、大量にこの中に、予算に入れている。そこを1回こなしただで、次のステップに行かないといけないということです。だから、アリーナの予算なんかは入っていますが、それはその先をやっていくってことです。ですから、まずはそんな状況になっているんですけど、財源不足はどうかというと、何とかなるということは確認して、細かく資料がありますので、かつ時間の関係で申し上げませんが、このレベルだと何とかなるという状態でやっていっています。財源についてはさらに無駄の排除、それから市有財産をもっと売る、有効活用する、そういうところが徹底されていけませんので、そういうことをやっていきたいと思います。ちょっとさっきの資料の一番最後を出していただけます。

例えばですけど、敬老事業の見直しで、これは6,200万円事業、敬老祝金の廃止です。あるいは、南部中継所で尿の受け入れをしていましたが、これはやらなくてもいいのに中継の受け入れをしていたというのは、この金額になっていますけど7,500万円の削減です。あとはテレビの放送中止であるとか、市民サービスコーナーを廃止するとか、そういったことがいっぱいあります。井川にある自然の家、これは年間収入9,800万円、ごめんなさい、逆ですね。年間支出9,800万円、収入は300万円です。毎年9,500万円ずっと赤字を出してきたということです。1億円の6年間で、6億円近く赤字を出しているわけです。それを何にも手をつけてきてないわけです。そういうのが実はいっぱいあるんですね、ここは。

だから、それを一つひとつ止めていくということで、変えていくということです。まだまだ今年、それがそのまま収入だとか予算には反映されていませんけど、そういうことをやれば相当変わると思います。

◆テレビ静岡

ありがとうございました。

◆司会

その他、いかがでしょうか。中日新聞さん、お願いいたします。

◆中日新聞

今、その維持管理費、維持費というところで、そういう苦しい懐事情の中で、その中でも建設発生土の受け入れだとか、お茶の輸出だとか、あと出資制度とか、森林の関係なんか難波市長のカラーがすごく出ている事業もたくさんあるなど

思ったんですが、難波さんの思いというか、難波さんらしさみたいところでちょっと一言ください。

◆市長

ありがとうございます。とにかく変革していかないといけないわけです。例えばお茶ですけど、「お茶のまち静岡」といってキャンペーンをやっていたって何も変わらないんですよ。それは、お茶のまち静岡といって静岡市民に対してそう言っているだけであって、世の中には何も伝わらないわけです。そういう状態をずっと続けると、今のような状況まで陥っているということです。茶農家 1 軒あたりで、例えば、収入ですからね、売り上げ、ごめんなさい、所得じゃないですからね、この収入で 200 万円、平均すると 200 万円以下というような状況が、今なっているわけですね。これで新しい人がお茶の生産に入ってくるはずがないわけですね。だからどうするかということを、本当はもっともっと前から考えていかないといけない。それはもう、有機・碾茶・輸出、この三つが、これで生きていくのが一番変革には効くというのはわかっているわけですけど、手をつけてこなかったんで、ですから有機農業の推進、それからああいうふうに甜茶炉を作る、そういった具体的な問題に対して、具体的な取り組みを一つひとつ丁寧にやっていくのが大事ですので、一見すると細かい事業が多いんですけど、でも、それはやっぱり本当に何をやると変わるかというところに気配りをしてやっているという事業ですので、それを積み重ねですね。今回、少し説明をしましたけど、それで済むというような状況じゃなくて、本当にありとあらゆるところを変えていかないといけないところが、まだまだ残っていますので、これから変えていきたいと思います。

もう一つ、環境も、自分らしいというところであると、環境に関する予算はかなり増えています。だから、森林もやはり山に手を入れていかないと、新しいやり方で森林の管理をしていかないといけないし、有機農業をやっていかないといけないしというところなんです。そのあたりは力を入れているということです。

◆中日新聞

ありがとうございます。

◆司会

はい。発表案件についてのご質問、その他、いかがでしょうか。発表案件については以上ということでよろしいでしょうか。

では、今日は、幹事社質問はないというふうに聞いておりますので、時間までその他のご質問があれば、お受けをしたいと思います。その他のご質問ある方、

いかがでしょうか。はい。NHK さん、お願いいたします。

◆NHK

以前もこの会見で伺っているんですが、東名高速道路の久能山のインター、スマートインターチェンジの南側のところで、条例の制定とか、変わったところが実施されていくということで、改めてにはなりますが、市としての狙いと期待感、そういったものをお願いします。

◆市長

はい。あそこは、静岡市が、新しい産業が、企業立地が少ないという最大の原因は、企業立地用地を供給していないことです。唯一と言えるのが、恩田原・片山、スマートインターのところの 70 ヘクタール、ごめんなさい、80 ヘクタールですね。80 ヘクタールなんですね。ここを有効活用しないといけないということで、本当に宝のような土地になります。ですから、とりわけ今の宮川水上地区の 47 ヘクタールを、これからどうするかというところで、お宝のような土地を最大限有効活用していかないといけないので、今、それをやっているところですけども、組合施行になっていますから、組合の方がそこをやってくださるわけですけども、ただやはり、市が、やはり公共的な道路だとか、河川だとか、そういうところの改修をしっかりやっていかないと、あそこは成り立たないわけです。

大事なものは、企業は 10 年後と言って話をしても来てくれません。「10 年後に土地ができるんですよ」と言ったら、「いやいや、そういう話だったら 5 年後に来てください」「5 年後に我が社に営業に来てください」ということですよ。だから、今ちゃんと企業立地なり、商業立地してもらおうと思うと、遅くても 5 年、少なくとも、普通で言うと 4 年ですよ。4 年以内にここがもう使える状況になりますという状態をつくらないと、誰も、まともに検討してくれません。今までは、ついこの間までは、そこは 8 年だったり、10 年ぐらいかかるぐらいの予定でしたけども、とにかく公共投資を加速して、4 年以内には、あそこで立地できるというのを、公共側が足を引っ張らないようにする、組合は一生懸命整備事業をやってくださると思いますので、組合が一生懸命やる足を、静岡市が投資不足で足を引っ張らないように、費用がかかりますけど、我慢しないといけない、やっていかないといけないと思っています。

本当に大事な土地ですので、最大の有効活用をするというのが大事だと思っています。

◆司会

はい。その他、これは聞きたいということがあれば、お受けをしたいと思いますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

では、本日の会見はここまでとさせていただきます。

◆市長

はい、長時間どうもありがとうございました。

◆司会

ありがとうございました。次回は、2月21日の金曜日、11時からの予定となります。よろしくお願いいたします。